# 中学校　美術科　部会

部会長名　添田町立添田中学校　校長　中野　純孝
実践者名　香春町立香春思永館　教諭　真武　祐二

1　研究主題

思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導の研究
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～

2　主題設定の理由

（1）社会的な要請と新学習指導要領の動向から

世界的な出来事が、人々の生活に大きな影響をもたらしている現代において、学校を含めた子どもたちを取り巻く環境もまた、著しい変化を見せている。数年前では考えられなかった家庭・学校での生活スタイルの違いが、子どもたちの今後の成長に与える影響とは、どんなものだろうか。

そんな予測不能な社会の変化の中にあっても、子どもたちには、その変化に主体的に向き合い、自らの可能性を発揮しながら、人生や社会をよりよいものにする生き方をしてほしい。学校教育には、そのために必要な力である「生きる力」を育成することが求められている。

平成２９年告示学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むことをめざして、「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫等を引き出すために、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。また、「どのように学ぶか」について、教育課程編成・実施の在り方（カリキュラム・マネジメント）や子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための配慮事項が示され、現在、各学校での授業改善がすすめられている。

美術科においても以下のような改訂が行われた。教科の目標では、美術は何を学ぶ教科なのかということが明示され、生活や社会の中の美術や美術文化などと豊かに関わる資質・能力の育成がより一層重視された。また、目標が三つの柱、①造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの（知識・技能）、②表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方などに関するもの（思考力・判断力・表現力等）、③学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの（学びに向かう力・人間性等）で整理された。

これらのことを踏まえて美術科では、次の視点を意識した授業改善を図ることが重要となる。造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させること（深い学び）。美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めること（主体的な学び）。自己との対話を深めることや〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べあったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすること（対話的な学び）。そうした授業改善が、美術科において育成する資質・能力の一層の深まりにつながると考える。

（２）生徒の実態から

美術科において豊かな情操を養うためには、生徒が主体的な創造活動を通して、心を生き生きと働かせて自己実現を果たしていく喜びを実感的に味わうことが大切である。それにより生徒は、よさや美しさを自分の中で大事な価値とし、それにあこがれる心を一層豊かに抱くことができるのである。

そんな視点から生徒をとらえると、現状は十分な状態とはいいがたい。作品制作を楽しいと感じ、愛好する姿勢は見られるものの、苦手意識を持っている生徒もみられる。また、学年が上がるにしたがってその数は増加する傾向がある。

苦手意識が何に起因しているかを考えると次のような例があげられる。ひとつめは、作品制作や鑑賞活動における各段階でのつまずきが影響している場合である。「自分の作品イメージに合うアイデアや工夫点がわからない」「鑑賞した作品のどんな点がよいか、どう言葉で表せばよいかわからない」というつまずきが、「もういい・面倒」「自分には才能がない」といったあきらめや投げ出しにつながっていると考えられる。ふたつめは、年齢が上がるにつれて、自他の作品を客観的に比較して見る力が高まり、自らの能力に懐疑的になっている場合である。その際、他者の作品から、どういう表現をするとよいかをとらえ、自作品に活かすという方向ではなく、「自分はみんなより下手だから」という思い込みで自信を喪失していると考えられる。

そうした状態を改善するために、ヒントをくりかえし出したり、困難点に合わせた補助的な支援や練習をしたりするなどの対策をとることで基礎となる力を養うと同時に、対話的な学びを取り入れ、自他の考えを交流し合うことの価値に気づかせることができれば、失われかけた主体性の回復につながり、より深い学びにつなげることが可能になると考える。

３　主題の意味

（１）思考力・判断力・表現力を高める美術科学習指導とは

美術科において育成する「思考力・判断力・表現力等」とは、表現の活動を通して育成する発想や構想に関する資質・能力と、鑑賞の活動を通して育成する鑑賞に関する資質・能力である。

そのうち、発想や構想に関する資質・能力とは、自らで生み出した主題をもとに豊かに発想し､創造的な表現の構想を練ったり再度練り直したりすることを示しており、鑑賞に関する資質・能力とは、造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり、作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたりするなどの見方や感じ方のことを示している。

また、「思考力・判断力・表現力等」をより豊かに育成するためには、発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を総合的に、相互に関連して働かせながら学習を進められるようにすることが大切になる。それは、次の視点で授業を構築し、積み重ねていくことであると考える。

①生徒が形や色彩などから感じる造形的なよさや美しさに気づくことができる。

②作品に込められた作者の心情や表現の意図と工夫を感じ取ることができる。

③身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの生活や社会を心豊かにする

造形や美術の働きなどを捉えることができる。

（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは

これまでの美術科では、美術の創造活動を通して、自己の創出した主題や、自分の見方や感じ方を大切にし、創造的に考えて表現したり鑑賞したりする学習を重視してきた。それを一歩進め、より「深い学び」とするには「主体的な学び」「対話的な学び」を取り入れた授業改善が不可欠である。

「主体的な学び」の実現を図るには、まず育む資質・能力を生徒が正しく理解できるようにねらいを明示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにする。その上で、生徒自身が自らの変容を自覚できるような振り返りの機会を設定することが考えられる。例えば、主題についてアイデアを考えるとき、それをまとめていく思考の過程が確認できるようなワークシートを準備する。そして、自分なりの意味や価値を具体化していく過程が認識できるような自己評価の機会を指導計画に位置づけていくことなどである。また、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させることで、美術を学ぶことに対する必要性を実感し目的意識を高めることができると思われる。

「対話的な学び」の実現を図るには、自己との対話を深めることや〔共通項目〕に示された事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べあったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることなどが考えられる。このような言語活動の充実を図ることで、お互いの見方や感じ方、考えなどが交流され、新しい見方に気づいたり、価値を生み出したりすることができるようになる。

また、主体的な学び、対話的な学び、深い学びにおいても相互に関連するべきものであり、主題の追求過程や表現の構想段階、創意工夫しながら技能を働かせる場面や鑑賞など様々な過程において、意図的に関連するような授業の流れを構築していくことが重要であると考える。

したがって、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とは、美術の学びを質的に深めるものであると同時に、学びを生き方や人生とつなげていくものと捉えて、「造形的な見方・考え方」を働かせた生徒の主体的な学びを保障しつつ、表現と鑑賞を相互に関連させた授業展開の工夫を行うことである。

4　研究の目標

美術科におけて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、思考力・判断力・表現力を高めることについて究明する。

5　研究仮説

美術科の表現及び鑑賞の学習活動において、学習意欲を引き出すためのふりかえりの場や、自他の制作の意図や作品のよさにふれる学び合いの活動を設定すれば、生徒が造形的な見方や感じ方、考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力が高まるだろう。

6　研究の計画（授業の計画）

（１）題材「作品の見方や感じ方を深めよう（鑑賞）」

（２）題材の目標及び指導計画

| 題　材 | 「作品の見方や感じ方を深めよう（鑑賞）」 | 総時数 | ３時間 |
|---|---|---|---|
| 題材の目標 | ○　鑑賞文を書くときに必要な「ものの様子や状態を表す言葉」を考えることができる。（知識及び技能）<br>○　自分が感じ取った作品のイメージが、どのような創造的な工夫により表されているかに気づき、明確に文章で表すことができる。<br>（思考力・判断力・表現力等）<br>○　既習内容である鑑賞についての５つの視点【色・形・画面構成・雰囲気、印象・作者の思い】に基づいて、より深く作品のよさや美しさを感じ取り、それを鑑賞文に書き表すことができる。<br>（思考力・判断力・表現力等）<br>○　さまざまな作品の鑑賞を主体的に行い、そのよさや美しさなどの価値を深く感じ取ることができる。（学びに向かう力・人間性等） | | |

| 時数 | 主な学習活動 | 評価基準（観点） |
|---|---|---|
| 1 | 『鑑賞力 up・キーワード発見』の前年度版を見直し、新たな言葉を追加する。 | 鑑賞文を書くときに必要な「ものの様子や状態を表す言葉」を考えることができる。（知識・技能） |
| 2<br>本時 | 作品を全体的なイメージでとらえ、それがどのような創造的な工夫によって表されているかを考え、鑑賞をする場合の見方や感じ方を深める。 | 自分が感じ取った作品のイメージが、どのような創造的な工夫によって表されているかを明確に文章で表すことができる。（思考・判断・表現） |
| 3 | 『鑑賞文の書き方』の基本形に沿って、鑑賞文を書く。 | 鑑賞の５つの視点に基づいて、より深く作品のよさや美しさを感じ取り、それを鑑賞文に書き表すことができる。<br>（思考・判断・表現）<br>作品の鑑賞を主体的に行い、そのよさや美しさなどの価値を深く感じ取ることができる。<br>（主体的に学習に取り組む態度） |

7　指導の実際

（１）本時　　令和４年９月８日（木）　第３校時　美術室

（２）主眼　　作品の全体的なイメージが、どのような創造的な工夫によって表されているかを考え、交流する活動を通して、より深い作品の見方や感じ方をつかみ実感することができる。

（３）本時の指導観

導入段階では、まず全クラスで継続して実践している『鑑賞力 up・キーワード発見』の完成版を配布し、新たに加わった鑑賞文を書く時に必要な「ものの状態や様子を表す言葉」を紹介する。そこで、その多様性を再確認させるとともに、自分のイメージを的確に伝えるためには言葉の選択が重要であることを押さえる。次に、１学期期末考査で生徒が記述した鑑賞文を例示し、作品の見方や感じ方及びイメージの言語化が十分ではないことをつかませ、本時のめあてを提示する。

展開段階では、はじめに課題①の作品鑑賞に取り組む。まず作品から感じ取った全体的なイメージを選択肢３つの中から選ばせる。そして、自分が選択したものがどのような創造的工夫によって表されていると思うか、文章でまとめさせる。その際、どこのどんな表現＜描かれ方＞から感じとったのかをできるだけ細かく、具体的に文章にまとめるよう指示をする。この言語活動を通して、自己の価値意識をしっかりと持たせることで、グループの交流活動での深まりにつなげたい。その後、グループ内で交流したうえで、最も深い見方・感じ方ができていると思う文章を決めさせる。そして、実物投影機で全体に示しながら、深い見方ができているポイントを評価しつつ、気づきの鋭さや細かさが重要であることをつかませる。

後半は、課題②の作品について、全体的なイメージ及びどのような創造的工夫によって表現されていると思うか、選択ではなく文章でまとめさせる。課題①での活動を参考に、より深い見方や感じ方ができるように声かけをする。

終末段階では、めあての達成ができたか確認をするとともに、作者の思いが現れる創造的工夫を発見し、想像することが鑑賞の楽しさのひとつであることを伝え、将来に生かされるものであることを押さえる。

（４）本時指導のポイント

| | 目　的 | 観　点 | 方　法 |
|---|---|---|---|
| 書く（表現）活動 | ①自分の気づきを明確にするため。<br>②交流活動後に、新たな作品の見方や感じ方ができることに気づくため。 | ①思考の明確化<br>②課題解決 | ○作品の全体的なイメージを記述（①選択・②自由記述）<br>○創造的に工夫された表現がどう表されているかを記述する。 |
| 話し合う（交流）活動 | 他者の考えに触れ、自分では気づかなかった視点を発見し、より深い作品の見方・感じ方をつかむため。 | 課題解決の過程 | ○グループ内で交流し最も深い見方・感じ方ができている文章を選ぶ。 |

（５）準備　　学習プリント４種（『キーワード発見』『鑑賞文の記入例』『学習プリント①』『学習プリント②』）、実物投影機

（６）展開

| 展開 | 学習活動・内容 | ○指導上の留意点　◇評価基準 |
|---|---|---|
| 導入<br><br>5分 | 1　本時の学習課題をつかむ。<br>（１）『鑑賞力 up・キーワード発見』を見る。<br><br>（２）１学期に書いた鑑賞文を見直し、その課題をつかむ。 | <br>○全クラスで新たに考えたキーワードを入力して、今年度版を作成し、配布する。<br>○１学期に生徒が記述した鑑賞文を例示し、作品の見方や感じ方が十分ではないことをつかませ、本時のめあてを提示する。 |
| | 【めあて】<br>新たな鑑賞方法体験と交流活動を通して、より深い作品の見方や感じ方をつかもう。 | |
| 展開<br><br>40分 | 2　課題①の作品を鑑賞する。<br>（１）作品から感じ取った全体的なイメージを選択肢から１つ選ぶ。<br><br>（２）自分が選択した全体的なイメージがどのような創造的工夫によって表されていると思うか、文章でまとめる。【書く活動】<br><br>3　グループ内で交流し、最も深い見方・感じ方ができていると思う文章を１つ選ぶ。【交流活動】<br><br>4　課題②の作品を鑑賞する。<br>（１）作品から感じ取った全体的なイメージを『キーワード発見』を参考にしつつ、記述する。<br>（２）自分が感じた全体的なイメージが、 | ○学習プリント①を配布する。<br>○印刷された作品をしっかり鑑賞したうえで、 全体的なイメージを、選択肢３つの中から選ぶ。<br>○自分が選んだ全体的なイメージが、どこのどんな表現＜描かれ方＞から感じとったのかを細かく具体的に文章にまとめるよう指示をする。<br>○グループを指定し、プリントを交換して読み合い、その中から１つ選ばせる。<br>○選ばれた文章を全体に示しながら、より深い見方ができているポイントを評価しつつ、気づきの鋭さや細かさが重要であることをつかませる。<br>○学習プリント②を配布する。<br>○学習プリント①での活動を参考に、より深い見方や感じ方ができるように声かけをする。<br>◇自分が感じ取った作品のイメージ |

| | | |
|---|---|---|
| | どのような創造的工夫によって表されていると思うか、文章でまとめる。<br>【書く活動】 | が、どのような創造的な工夫によって表されているかを明確に文章で表すことができる。（思・判・表） |
| 終末<br>5分 | 5　本時の学習をまとめる。<br>【まとめ】<br>より深い作品の見方や感じ方をするには、色や形、ぬり方、画面構成などの細かい発見が必要である。作者がなぜそうしたのかを想像することが大切であり、それが鑑賞の楽しさでもある。 | ○めあてが達成できたか確認する。 |

8　研究のまとめ

本題材は、全学年で実施している期末考査での鑑賞文の書き方【色・形・画面構成・雰囲気、印象・作者の思いの５つの視点ごとに、作品を見てわかる特徴と自分がどう感じるかを記述する】をベースに、『キーワード発見』の活動をふまえて、より深く作品のよさや美しさを感じ取れる資質・能力を育成するための授業とした。そして、本時では、作品から感じ取れるイメージと作者の創造的な工夫の関連性にも気づき、言葉として表現する力を高めるために【書く活動①→話し合う活動→書く活動②】という流れで授業を構成した。

学習プリントを見ると、書く活動①から書く活動②へと進むなかで、生徒の作品の見方や感じ方に深まりが感じられる文章表現がみられた。また、次時に実践した『鑑賞文の書き方』の基本形に沿って鑑賞文を書く授業においても、今まで表面的な見方であったり、気持ちが伝わらない書き方をしたりしていた生徒の文章が、作品の奥にある作者の思いを想像するような深みを感じさせるものになっていた。また、全体的にみても、記述する行数や言葉数が増加していた。

以上の点から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して思考力・判断力・表現力を高めることにつながったと考える。

9　成果と今後の課題

○　題材の中で、書く活動や話し合う活動を適切に位置づけることで、生徒自身の思考や見方・感じ方に深まりが感じられた。あわせて、文章表現力の高まりにつながった。

●　書く活動や話し合う活動を授業や題材に取り入れる場合に、何をどう表現するのか、何について話し合うのかなどが、生徒にはっきり伝わるようにしておかなければ、効果が半減してしまうと思われる。

◎　参考文献

○　中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　美術編

## 『鑑賞力up ・ キーワード発見』

鑑賞文を書くときには、ものの状態や様子を表す言葉をたくさん知っていたほうが、作品から自分が感じたイメージをよりくわしく伝えることができます。ただ「すごい」「きれい」と書くのではなく、「どんなところがどのようにすごいのか」「きれいと思うのはなぜなのか」などを、たくさんの言葉でていねいに説明してみよう。

| あ | い | う | え | お | か | き | く | け | こ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 明るい | 色鮮やかな | 海のような | 栄光を感じる | 大きい | 輝いている | きらきらした | 暗い | 幻想的な | 心が躍る |
| 暖かい | 勢いよく | 美しい | エモい | 重い | がさがさした | ギラギラした | ぐにゃぐにゃな | 現代的な | 怖い |
| 熱い | 生き生きした | うれしそうな | 鋭利な | 重苦しい | 辛い | ぎざぎざした | くずれそうな | 芸術的な | 光沢がある |
| 甘い | 痛々しい | 動きがある | エンドレスな | おもしろい | 軽い | きれいな | くすんでいる | 元気そうな | 神々しい |
| あっさりした | 色あせた | ウキウキする | 永遠に | おいしそうな | かっこいい | 奇妙な | くもっている | 現実的な | 豪華そうな |
| 温かい | 色気のある | うるさそうな | えぐい感じ | おとなしい | 悲しそうな | 緊張感がある | 屈強な | けばけばしい | こわれそうな |
| あざやかな | 異国的な | 訴えかけてくる | 映像のような | 落ち着いた | かわいい | きしんでいる | 苦しい | けわしい | ゴージャスな |
| 新しい | 勇ましい | 薄い感じ | エキゾチックな | おだやかな | 角ばっている | ギスギスした | 朽ちていく | けだるげな | ごつごつした |
| 淡い感じ | いやされそう | 初々しい | 液体のような | おしゃれな | カラフルな | 恐怖な感じ | クラシックな | 軽快な | ゴテゴテした |
| 荒々しい | 一途な | うすきみわるい | 遠近感のある | 奥行きがある | 感動的な | ギクシャクした | クールな | 煙たい感じ | 古典的な |
| 安心感のある | 異世界のような | 宇宙的な | 笑顔あふれる | 大人っぽい | 硬そうな | 近代的な | くりかえす | 気高い感じ | 子供らしい |
| 粗い | 印象的な | うっとりする | 映画のような | 趣のある | 風のような | きらびやかな | グラデーションな | ゲーム的な | 広大な |
| 圧倒的な | 彩られた | 潤っている | | おぞましい | かすんでいる | 巨大な | くやしそうな | | 孤独な |
| 怪しい | 息をのむような | 愁いを帯びた | | おおらかな | 空っぽな | 近代的な | 空想的な | | 個性的な |
| 圧迫感 | | 薄暗い | | おっとりした | 乾燥した | 消えそうな | くっついているような | | 古風な |
| アニメのような | | 浮かぶような | | 踊っているような | カオスな | 幾何学的な | | | ごちゃごちゃした |
| 青空のような | | うっそうとした | | 幼い | 風のような | 緊迫感がある | | | コミカルな |
| 愛らしい | | 麗しい | | 驚きの | 活気のある | きわどい感じ | | | こっけいな |
| 厚みのある | | うねりがある | | おどろおどろしい | 距離感がある | キュートな | | | 濃い |
| **さ** | **し** | **す** | **せ** | **そ** | **た** | **ち** | **つ** | **て** | **と** |
| 寒い | 自然体な | 涼しい | せつない | ぞくぞくする | 楽しい | 小さい | 冷たい | てかてかした | 透明感のある |
| さらさらした | 静かな | 酸っぱい | 繊細な | ぞわぞわする | 平らな | 力強い | つるつるした | でこぼこした | どきどきする |
| ざらざらした | 地味な | すべすべした | 洗練された | そっくりな | 太陽のような | チープな | つやつやした | 天国のような | とげとげした |
| さみしそうな | 上品な | すっきりした | せかされるよう | そろっている | 弾力感がある | 抽象的な | つやがある | 伝統的な | どんよりした |
| さっぱりした | 神秘的な | するどい | 西洋的な | 壮大な | 対比した | 知的な | 月のような | 天才的な | とがっている |
| さわやかな | シンプルな | 透き通った | 絶妙な | 存在感がある | ダークな感じ | | 詰まっている | 伝説的な | どっしりした |
| 殺風景な | 涼しそうな | すかすかした | 精巧な | 騒々しい | ダンディーな | | ツンツンした | ていねいな | ときめくような |
| さびている | 幸せそうな | ずっしりした | 絶望感 | 創造的な | 大地のような | | 疲れたような | 天使のような | 独特な |
| ざわざわした | しんみりした | 清々しい | 迫ってくる | 爽快感がある | 大胆な | | 強そうな | 的確な | 堂々とした |
| 残酷な | しなやかな | すらりとした | 清楚な | 素朴な | 多様な | | 辛くなるような | 天然な | 特徴的な |
| 雑多な | 渋い | 澄みきった | 精密な | 空のような | ダルそうな | | 包まれたような | | とけるような |
| ささやくような | シュールな | 透き通った | 正確な | 騒然とした | ダイナミックな | | | | 尊い |
| 斬新な | 親近感のある | 素敵な | 世界的な | 壮絶な | たおやかな | | | | 特殊な |
| 騒がしそうな | じめじめした | 吸い込まれそうな | 清潔感のある | | たそがれた感じ | | | | 毒々しい |
| さつぱつとした | 芯のある | スースーする | 切羽詰まった | | | | | | ドロドロした |
| 最新型の | しみこむような | すがすがしい | | | | | | | 独創的な |
| | 人工的な | 垂直な | | | | | | | 鳥肌が立つような |
| | 地獄のような | すこやかな | | | | | | | とどろくような |
| | 情熱的な | スパイシーな | | | | | | | 飛び出しそうな |
| | 新鮮な | スピード感のある | | | | | | | 都会的な |
| | シックな | | | | | | | | ドラマチックな |
| | 刺激的な | | | | | | | | トリック的な |
| **な** | **に** | **ぬ** | **ね** | **の** | **は** | **ひ** | **ふ** | **へ** | **ほ** |
| 謎めいている | 苦い | ぬるい | ねっとりした | のびのびした | 派手な | ピカピカした | ふわふわした | ぺらぺらした | ぼんやりした |
| なめらかな | 鈍い感じ | ぬるぬるした | ネガティブな | のっぺりした | 激しい | ひらひらした | プルプルした | ぺとぺとした | ほんわかした |
| 生々しい | におうような | ぬりたてのよう | 熱血的な | のんびりした | 迫力がある | 光っている | 古い | ペタペタした | ほかほかした |
| なつかしい | 濁ったような | ぬめっとした | ネイティブな | 濃厚な | 華やかな | ひきこまれる | 分厚い | 平凡な | 本物のよう |
| 和やかな | にぎやかな | ぬくもりを感じる | 眠そうな | 濃淡のある | ハラハラする | ひんやりした | 不思議な | 平和な | 炎のような |
| 流れるような | にじんでいる | | | のどかな | パワフルな | ビックリした | 深みのある | 平行な | ふんわりした |
| 涙あふれる | にらむような | | | ノリのよい | 儚い | ひりひりする | 不気味な | ベーシックな | ほのぼのした |
| 波のような | 人間味のある | | | | 晴れ晴れした | ひややかな | ふかふかな | | ポジティブな |
| ナチュラルな | | | | | パラパラな | 品がある | フレッシュな | | 微笑ましい |
| 長い | | | | | はじけている | 必死な感じ | 複雑な | | 宝石のような |
| 泣きそうな | | | | | はかない | ひそかな | 風情のある | | ほんのりした |
| | | | | | はきはきした | 非現実的な | 文化的な | | ほのかな |
| | | | | | はりがある | ピリッとした | 不自然な | | 星のような |
| | | | | | 破壊的な | 広々した | ファンシーな | | ポカポカした |
| | | | | | 恥ずかしそう | 非凡な | 普通の | | 本格的な |
| | | | | | パステル調の | | ファンタスティックな | | ほっこりした |
| | | | | | 華がある | | | | ポップな感じ |
| **ま** | **み** | **む** | **め** | **も** | **や** | | **ゆ** | | **よ** |
| まぶしい | 魅力的な | 難しい | めずらしい | もやもやした | やわらかい | | ゆらゆらした | | 夜空のような |
| 丸みのある | 水のような | むなしい感じ | 目立ちそうな | もさもさした | 躍動感のある | | ゆったりした | | 洋風な |
| まぶしい | みずみずしい | むちむちした | メタリックな | モノクロな | 安らぐような | | 優雅な | | 喜びが伝わる |
| まっすぐな | 身軽な | ムラのある | 女神のような | もろい感じ | やさしそうな | | ユニークな | | 陽気な |

≪一部抜粋≫

# 1学期期末考査　『鑑賞文の記述例』　【9年生】

## 『よく書けている例』

色は、ほんのりとしたセピア色で、はっきりした照明が感じられず、古風なイメージである。
形は、テーブルの布や静物、カーテン、服のしわなどが、とても自然な表現になっており、現実の一瞬を切り取ったかのようなリアリティを感じさせている。画面構成は、左上に窓を配置し、人物を右下に小さく描いていることで、祭壇の前で神の判決を待つ人のようである。雰囲気・印象は、室内の明暗が強く表現されており、黒と白のコントラストが事件が起きそうなドキドキする緊張感を生み出している。作者の思いは、手紙を一心に見つめる女性の表情から、恋人の安否を知る瞬間の不安を示し、人生の厳しさを表しているように感じられる。

## 『あまり書けていない例』

色は、黄色なので夕方だろう。**【何が黄色なの？　どんな夕方なの？】**
形は、布がぐちゃぐちゃ。**【なぜ布がそうなった？　他に形の特徴は？】**
画面構成は、ひとが中心なので、かなしそう。**【何があったの？　ひとは中心ではない？】**
雰囲気・印象は、ガラスに映っている人がこわい感じ。**【なぜ怖そうなの？】**作者の思いは、部屋が暗いので、何かが起きそうだ。**【何が起こるの？　なぜ部屋は暗いの？】**

**※ その場面やストーリーを、画面の中のさまざまな特徴（情報）から想像する必要がある。**

## 学習プリント①　　年　　組　　番・氏名(　　)

A　左の作品を鑑賞して、あなたが感じ取った全体的なイメージに、最も近いものを選んで、○でかこみましょう。

① 燃えるような夕日の情景
② 天国と地獄の境目
③ 蒸気を切り裂くスピード感

B　あなたが感じ取った全体的なイメージは、どの部分のどんな描き方に表されていますか。できるだけ詳しく描きましょう。

| |
|---|
| |
| |
| |

## 学習プリント②　　年　　組　　番・氏名(　　)

A　左の作品を鑑賞して、あなたが感じ取った全体的なイメージを言葉で表しましょう。

B　あなたが感じ取った全体的なイメージは、どの部分のどんな描き方に表されていますか。できるだけ詳しく描きましょう。

| |
|---|
| |
| |
| |